

D—14 家計食費の恣意性

東京家政大 中村 卓

1. 共稼世帯が若干なりとも所得が大でエンゲル係数が小さいのは、実は家計全般の緊縮さの表現であって、豊かさを少しも示していない生活の一つの表現ではなからうか。

2. 所得が増加したから米より高価な食料が必要されるのだと、個別の家計の恣意的な消費性向を是認することが正しいかどうかを検討することによって問題に接近しよう。独占資本の高度成長に伴う二重構造解消の必要は自給農民を分解しエンプロイメントの拡大に対応した

自家労働力の減少＝資本装備の高度化は所得弾力性の高い作物への移行を必然化する。そのような食料作物は多く加工食品の原料に見られ、食料独占資本の下請関係に組み入れられることによって実現可能である。かくて世界の資本の運動は穀物を排除し米麦いも類雑穀は高度経済成長のもとに縮減してゆく。経済成長期に期待されるものは安価な供給であるのに、未加工食品たる米は食管制の故に資本の側からの突き上げで高米価を強制され、低米価＝低賃金機構維持の線に沿う外米輸入に侵蝕され、資本の洗礼を受けた高度保全食への消費切替が、資本の側からなされる社会的消費者教育によって、家計自身の判断であるかの如き錯覚を伴いつつなされてゆく。食料消費の高度化は資本の運動である。

3. だから所得の平準化という必然性のうちに逆にエンゲル係数は、資本の独占利潤追求の故に、上昇傾向を内包するのである。消費者は王様ではなかったのである。